

# SDGs を主題にした講義「環境を考える」での学生実践の取り組み

上月康則（環境防災研究センター）、浅田菜々子（徳島大学理工学部）  
松重摩耶（環境防災研究センター）

## 1. はじめに

「持続可能な開発目標（Sustainable Development Goals, SDGs）」は、持続可能な社会実現のために2030年まで達成すべき17の目標から構成されている国際目標のことである。現在、企業、団体、学校、家庭のあらゆる主体でSDGs目標達成に向けた取り組みがなされており、徳島大学でもSDGsは、重要な教育テーマの一つにされている。本学社会基盤デザインコースで扱う土木工学は社会システム全体を扱うため、卒修了生は17の目標全てに関連する素養を理解、習得することが望ましい。本報告では、本コースの2年次前期の必修科目「環境を考える」で行われた、SDGsをテーマにした講義について報告する。なお、本報の前半では講義の概要と授業評価について、後半では受講生による学びの事例を報告する。

## 2. 講義「環境を考える」の概要

到達目標は「SDGsを自分ごとに捉えて、①課題解決のための計画を考え、②実行、③伝え・対話、④とりまとめができるようになること」である。それに対して、講義では「SDGsを自分ごとに」「多様性」「実践事例」をキーワードに8名の外部講師を招き、表1のような話題を提供した。特に、第1~4回までは、自分ごとの計画を立案、第10回は他者に伝え共有することを目的にした。学生への課題は、私のSDGs計画、行動レポート、行動結果をまとめた名刺作成の3つで、評価は行動レポートと名刺を対象に行った。特に名刺は、学生同士での名刺交換会（第10回）を行い、相互評価の結果は成績評価にも考慮した。

講義形式は「対面」とし、毎回、①レポート添削（20分）、②SDGsに関する話題（40分）、③講義内容に対する3~4人一組での討議（20分）、④共有、ふりかえり（10分）を行った。履修登録

した学生は6コースにわたり、全157名あった。

表1 話題と講義一覧（\*:外部講師）

回	内容	講師
1	ガイダンス「あなたの目標」	上月
2	「学生の間でやっておくこと1」	コースOB*
3	「学生の間でやっておくこと2」	コースOB*
4	自分のSDGs計画づくり	上月
5	「気候変動、カーボンニュートラル」	上月
6	「徳島の自然災害と防災」	松重
7	「徳島の生物多様性」	エコ未来徳島*
8	「生ごみの処理」	実践者*
9	「ゼロウエスの取り組み」	上勝担当者*
10	名刺交換会・活動の共有	上月
11	「海の環境問題」	実践者*
12	「他者への伝え方」	アウンサー*
13	「ジュンカンからみたプラごみ問題」	上月
14	「Purposeとは」	実践者*
15	テスト	上月

## 3. 結果

### (1) SDGsの取り組み課題

各自取り組んだ課題の種類は約20種類以上あった。特に多かったのは、「ペットボトルの使用量を減らすこと」で19名の学生がこれに取り組んだ。次いでそれぞれ16名が「レジ袋の使用量を減らす」、「海岸や路上のごみ拾い」であった。他には、フードロス、省エネ・節エネ、リユース、防災、地産地消、教育などがあり、1名ずつであったが途上国問題や料理づくりから世界を知るといった特色のあるテーマに取り組んだ学生もあった。

### (2) 講義目標の達成について

不合格となった学生は5名で95点以上の学生は9名おり、大半の学生は目標を達成し、中に集はSDGsを深く理解し、優れた活動を行った学生もいた。学生のアンケートでは、「SDGsのとりくみができるようになったか?」という問い（9段階）で最高点をつけた学生は全体の43%おり、

「SDGsの内容を他者に伝えていきたい、他者と議論していきたいと思っていますか?」についても同様に37%の学生が最高点をつけており、おおむね講義目標は達成されたと思われた。

#### 4. 学生の実践事例

##### (1) 私が取り組んだこと

私は「環境に配慮した取り組み」を行うことを課題とした。まず、4月から7月までの目標を「個人でできることから始めよう! リサイクル・リユース生活!」とし、以下の5つの計画を立て、実行した。①1週間ごとに、資源回収に出した食品トレーの量を計測する、②資源回収を行っている地域の小学校に段ボールや本類を持っていく、③古着を用いて、エコバックを作る、④家庭内でペットボトルキャップ集め、回収場所に持っていき、⑤リサイクルの活動をしている方に話を聞く。

##### (2) 成果

①と④の活動は、4月17日~7月16日まで行い、ペットボトルキャップは86個、食品トレーは151枚集め、指定回収場所に持って行った。私の食品トレーのリサイクルによって二酸化炭素排出量は約6.66kg削減<sup>1)</sup>されたと試算できた。またペットボトルキャップを回収すると『世界中の子供たちにポリオワクチンが提供される』仕組み<sup>2)</sup>になっており、私が集めた86個のペットボトルキャップは、約0.09人相当分のワクチンとなった。②の活動は、3か月間で2回行い、③ではジーンズ3本、Tシャツ、ランチョンマップ、ベルトから写真1のエコバックを作成した。⑤では『使用済み歯ブラシからSDGsアイデアブックを小学校や児童館に送るプロジェクト!』<sup>3)</sup>をされている木下さんにお話を聞き、私も実施することとした。

以上の成果を名刺にまとめた(図1)。表には、氏名と取り組んだことを、裏面にはその成果をまとめた。名刺交換会では、各自様々な取り組みがなされていて、やってみようと思う活動もあり学びは多かった。他の学生からは「内容が多様であることに驚かれ、自分にもできそうだが知らなか

ったと感心された」。

##### (2) 学んだこと、生活に活かされていること

今回の活動を通して、2つのことを学んだ。1つ目は、『身近なことから取り組んでみることの大切さ』を学んだ。普段の生活を送るなかで、無理をしない範囲で目標設定をした結果、現在も、この5つの計画に取り組むことができている。2つ目は、『さまざまな交流に結び付き、視野を広めることができたこと』だ。講義中、生徒同士で活動を報告しあう時があり、そこで知ったことは自分の活動を高めることにつながった。また、歯ブラシ回収活動をされている木下さんのお話から、『活動情報を発信することで、活動の規模が大きく変化していくこと』を学んだ。以上の学びから、日々の生活の中でSDGsを考える機会が増えたと感じる。

図1 SDGsの活動をまとめた名刺の表裏

参考資料 1)3R 原単位の算出方法、環境省 <https://www.env.go.jp/press/files/jp/19747.pdf>, 2)NPO ペットボトルキャップ回収-世界の子供にもワクチンを、日本委員会 <https://www.jcv-jp.org/donation/pbcap>, 3) ハブラシ・リサイクルプログラム、<https://www.lion.co.jp/ja/sustainability/toothbrush-recycling/program/>